

## 8. 支持力表(長期)

杭径D <sub>i</sub> (mm)		300	350	400	450	500	600	700	800	900	1000	1100	1200		
杭先端有効断面積A <sub>p</sub> (m <sup>2</sup> )		0.0707	0.0962	0.1257	0.1590	0.1963	0.2827	0.3848	0.5027	0.6362	0.7854	0.9503	1.1310		
杭周長φ (m)		0.94	1.10	1.26	1.41	1.57	1.88	2.20	2.51	2.83	3.14	3.46	3.77		
杭軸部換算断面積A <sub>e</sub> (m <sup>2</sup> )	A種	0.0464	0.0561	0.0704	0.0858	0.1084	0.1480	0.1936	0.2447	0.3021	0.3648	0.4332	0.5078		
	B種	0.0476	0.0574	0.0723	0.0880	0.1113	0.1519	0.1987	0.2510	0.3101	0.3743	0.4442	0.5208		
	C種	0.0483	0.0582	0.0731	0.0891	0.1126	0.1536	0.2015	0.2544	0.3141	0.3791	0.4497	0.5273		
許容材料支持力※ <sub>1</sub> (kN)	F105	A種	1206	1459	1830	2231	2818	3848	5034	6362	7855	9485	11263	13203	
		B種	1047	1263	1591	1936	2449	3342	4371	5522	6822	8235	9772	11458	
		C種	966	1164	1462	1782	2252	3072	4030	5088	6282	7582	8994	10546	
	F85	A種	928	1122	1408	1716	2168	2960	3872	4894	6042	7296	8664	10156	
		B種	762	918	1157	1408	1781	2430	3179	4016	4962	5989	7107	8333	
		C種	676	815	1023	1247	1576	2150	2821	3562	4397	5307	6296	7382	
許容地盤支持力※ <sub>2</sub> (kN/本)	先端支持力	平均先端N値	30	240	327	427	541	667	961	1308	1709	2163	2670	3231	3845
		砂質・礫質 α=340	40	321	436	570	721	890	1282	1744	2279	2884	3560	4308	5127
		50	401	545	712	901	1112	1602	2181	2849	3605	4451	5385	6409	
		60	481	654	855	1081	1335	1922	2617	3418	4326	5341	6462	7691	
		平均先端N値	30	247	337	440	557	687	989	1347	1759	2227	2749	3326	3959
		40	330	449	587	742	916	1319	1796	2346	2969	3665	4435	5278	
	杭周面摩擦力	粘土質 α=350	50	412	561	733	928	1145	1649	2245	2932	3711	4582	5543	6598
		60	495	673	880	1113	1374	1979	2694	3519	4453	5498	6652	7917	
		砂質地盤の 平均N値 β=6.2	10	19	23	26	29	32	39	45	52	58	65	72	78
		15	29	34	39	44	49	58	68	78	88	97	107	117	
		20	39	45	52	58	65	78	91	104	117	130	143	156	
		粘土質地盤の 一軸圧縮 強度の平均値 γ=0.8	50	13	15	17	19	21	25	29	33	38	42	46	50
100	25	29	34	38	42	50	59	67	75	84	92	101			
150	38	44	50	56	63	75	88	100	113	126	138	151			

※1:許容材料支持力は杭軸部換算断面積を用いて算定した。

※2:許容地盤支持力は、 $A_p = \pi \cdot D_i^2 / 4$ として算定した。

## 認定書



TACP-0257  
(先端地盤:砂質地盤)



TACP-0258  
(先端地盤:礫質地盤)



TACP-0493  
(先端地盤:粘土質地盤)

# NIPPON HUME

## 日本ヒューム株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋5丁目33番11号 TEL:(03)3433-4111(大代)  
技術研究所 〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉3300番地 TEL:(048)536-5431(代)

東日本統括本部  
北海道支社 〒060-0042 札幌市中央区大通西4丁目1番地(道銀ビル) TEL:(011)231-8141(代)  
函館営業所 〒040-0036 函館市東雲町5番11号(寺井ビル) TEL:(0138)24-0501(代)  
旭川営業所 〒071-8113 旭川市東豊橋東3条2丁目1924番1(ナトリ株式会社旭川支店事務所内) TEL:(0166)58-5510(代)  
苫小牧営業所 〒059-1372 北海道苫小牧市勇払132番地 TEL:(0144)56-1850(代)  
苫小牧工場 〒059-1372 北海道苫小牧市勇払132番地 TEL:(0144)56-0226(代)

関東・東北支社 〒105-0004 東京都港区新橋5丁目33番11号(新橋NHビル) TEL:(03)3433-4121(代)  
府中営業所 〒183-0011 府中市白糸台2丁目66番3号 TEL:(042)302-5553(代)  
横浜営業所 〒231-0011 横浜市中区太田町5丁目69番(山田ビル) TEL:(045)226-1691(代)  
川崎営業所 〒213-0033 川崎市高津区下作延5丁目28番1号(スノーヴァ溝の口R246内) TEL:(044)814-2367(代)  
千葉営業所 〒264-0024 千葉市稲毛区穴川1丁目6番27号 TEL:(043)256-1157(代)  
北関東営業所 〒360-0161 熊谷市万吉3300番地 TEL:(048)536-3710(代)  
東北営業所 〒980-0802 仙台市青葉区二日町3番10号(グラン・シャリオビル) TEL:(022)713-8005(代)  
熊谷工場 〒360-0161 熊谷市万吉3300番地 TEL:(048)536-0343(代)

東日本統括本部  
東海支社 〒460-0007 名古屋市中区新栄2丁目19番6号(グランスクエア新栄) TEL:(052)253-9061(代)  
三重営業所 〒510-8114 三重郡川越町亀崎新田58番地 TEL:(059)364-8880(代)  
岐阜営業所 〒501-0225 瑞穂市祖父江46番81号 TEL:(058)329-5025(代)  
金沢営業所 〒921-8011 金沢市入江1丁目472番地 TEL:(076)292-0045(代)  
三重工場 〒510-8114 三重郡川越町亀崎新田58番地 TEL:(059)365-2126(代)

関西支社 〒550-0004 大阪市西区靱本町1丁目20番13号(なにわ筋ビル) TEL:(06)6479-2020(代)  
岡山営業所 〒700-0901 岡山市北区本町10番22号(本町ビル) TEL:(086)235-8891(代)  
広島営業所 〒730-0021 広島市中区胡町4番21号(朝日生命広島胡町ビル) TEL:(082)543-5070(代)  
高松営業所 〒760-0018 高松市天神前10番5号(高松セントラルスカイビルディング) TEL:(087)835-9609(代)  
尼崎工場 〒660-0086 尼崎市丸島町32番地 TEL:(06)6416-4201(代)

九州支社 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町2番29号(東原工業ビル) TEL:(092)283-5155(代)  
北九州営業所 〒808-0075 北九州市若松区赤岩町2番1号 TEL:(093)791-0026(代)  
熊本営業所 〒862-0913 熊本県東区尾ノ上2丁目11番18号 TEL:(096)213-2007(代)  
九州工場 〒808-0075 北九州市若松区赤岩町2番1号 TEL:(093)790-0026(代)

### ご注意とお願い

このカタログは、HiFB工法を用いた場合の支持力の取り扱いについての概要を紹介したものです。  
①同工法を用いて建築物の基礎を設計するにあたっては、本カタログを参考にするとともに、建築基準法や、関係法規、指針、基準等を遵守して、適正な設計をしていただきますようお願い申し上げます。  
②本カタログの掲載内容及び仕様は、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。  
③本カタログの詳しい内容についてのお問い合わせは、当社または当社販売店にお問い合わせいたします。

<http://www.nipponhume.co.jp>



# 1. 特長

本工法はプレボーリング拡大根固め工法に分類される高支持力杭大臣認定の埋込み杭工法です。

## ① 大きな周面摩擦力

周面摩擦力係数はHBM工法同様、旧認定工法から砂質土層(β)で3.1倍、粘性土層(γ)で1.6倍にUPしています。

## ② 先端粘土質地盤への対応

先端地盤は砂質地盤、礫質地盤に加えて、粘土質地盤にも適用することができます。

## ③ 安価な設計

大きな周面摩擦力により、杭長が約30m以上の場合、本工法で対応可能となる場合があり、他の高支持力工法と比較して安価な設計が可能となります。

## ④ 特殊形状の杭を使用しない

基礎杭先端に特殊形状の杭を使用しないため、すべての種類の既製コンクリート杭を使用できます。

# 2. 適合条件

① 杭先端地盤種別 …… 砂質地盤、礫質地盤、粘土質地盤

② 杭 径 …… φ300~1200

③ 最大施工深さ …… 砂質地盤 63m 礫質地盤 66m 粘土質地盤 69m

# 3. 許容鉛直支持力

## ① 長期許容鉛直支持力

$$Ra = (1/3) \left\{ \alpha \bar{N} A_p + \left( \beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c \right) \phi \right\}$$

Ra: 許容鉛直支持力 (kN)

α: 杭先端支持力係数  
 先端地盤: 砂質地盤および礫質地盤の場合 α=340とする  
 先端地盤: 粘土質地盤の場合 α=350とする

β: 砂質地盤における杭周面摩擦力係数 β=6.2とする

γ: 粘土質地盤における杭周面摩擦力係数 γ=0.8とする

N: 基礎杭先端より下方に1D<sub>1</sub>、上方に1D<sub>1</sub>間の平均N値(回)  
 但し、Nの範囲は砂質地盤および礫質地盤の場合は最大60、粘土質地盤の場合は15 ≤ N ≤ 60とし、いずれもN > 60の場合はN=60とする  
 また、個々のN値の上限は100とする

A<sub>p</sub>: 基礎杭先端の有効断面積 (m<sup>2</sup>)

N<sub>s</sub>: 砂質地盤の平均N値(回) 但し、N<sub>s</sub>の範囲は0 ≤ N<sub>s</sub> ≤ 30とし、N<sub>s</sub> > 30の場合はN<sub>s</sub>=30とする  
 また、個々のN値の上限は100とする

L<sub>s</sub>: 基礎杭周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計(m)

q<sub>u</sub>: 粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値(kN/m<sup>2</sup>) 但し、q<sub>u</sub>の範囲は0 ≤ q<sub>u</sub> ≤ 200とし、q<sub>u</sub> > 200の場合はq<sub>u</sub>=200とする

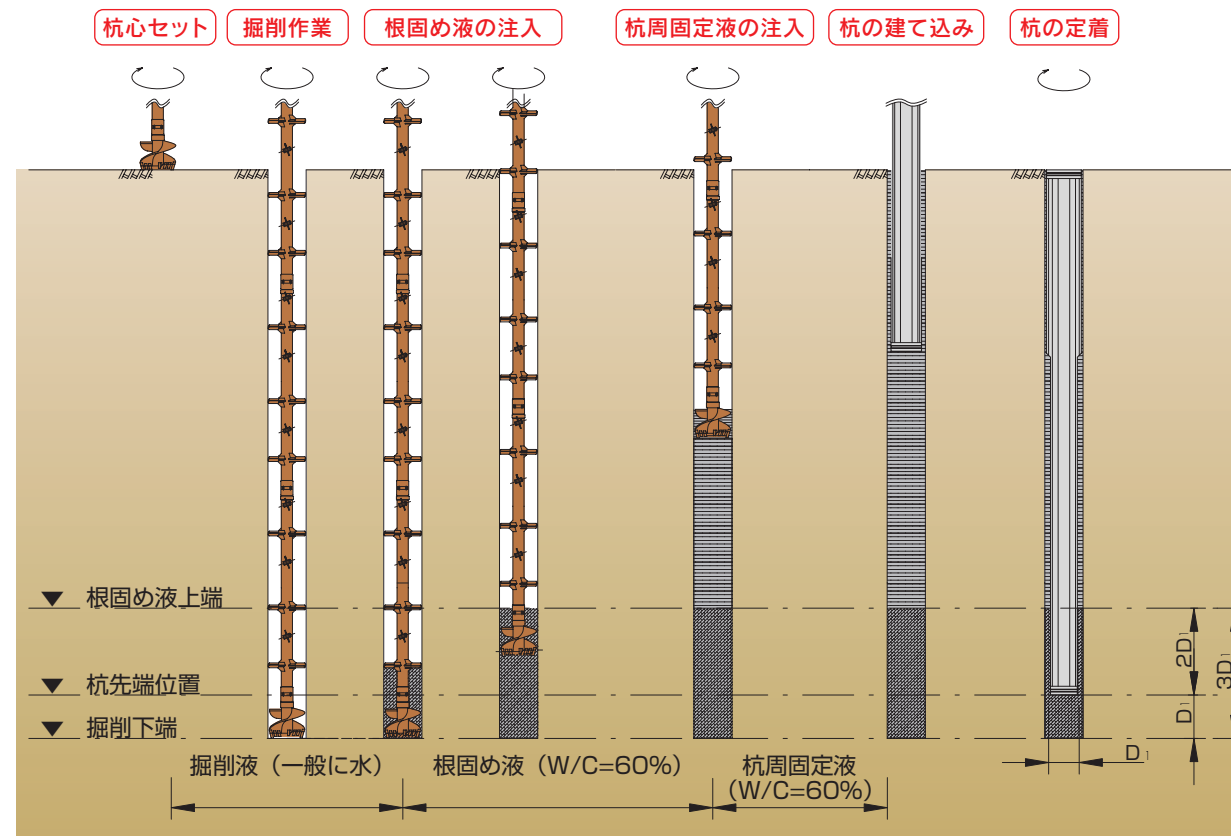
L<sub>c</sub>: 基礎杭周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計(m)

φ: 基礎杭周囲の有効長さ(m) [φ = π · D<sub>1</sub>、Eタイプ杭を使用時も軸径(D<sub>1</sub>)で摩擦を算定する]  
 ※先端部2D<sub>1</sub>区間は周面摩擦力を考慮しない

## ② 短期許容鉛直支持力

長期許容鉛直支持力の2倍とする

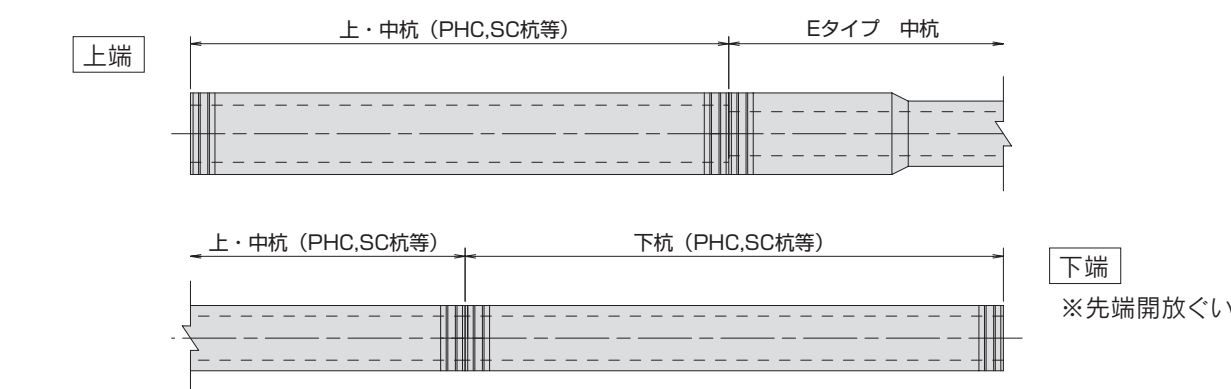
# 4. 施工方法



# 5. 杭先端部形状及び杭組合せ例

杭先端部標準形状: すべての種類の既製コンクリート杭を使用できます。

杭径	掘削径	球根径	球根長
300	400	400	900
350	450	450	1050
400	550	550	1200
450	600	600	1350
500	650	650	1500
600	750	750	1800
700	900	900	2100
800	1000	1000	2400
900	1150	1150	2700
1000	1250	1250	3000
1100	1400	1400	3300
1200	1500	1500	3600



# 6. 支持力計算例

## ① 設計条件

$$Ra = (1/3) \left\{ \alpha \bar{N} A_p + \left( \beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c \right) \phi \right\}$$

上杭・中杭径 D <sub>s</sub> (mm)	φ700・Eタイプ
下杭径 D <sub>1</sub> (mm)	φ600
杭長 (m)	30
杭先端深度	GL-32.0

## ② 周面摩擦力 (Rf)

	層厚L	N値	摩擦力度τ	τ · L
砂質土	0.7	3	18.6	13.0
粘性土	2.7	2	20.0	54.0
砂質土	15.9	13	80.6	1281.5
粘性土	9.4	9	90.0	846.0
	28.7			2194.5

粘性土の摩擦力度算出の際にN値を用いる場合は10Nとして算出します。  
 註) 先端部区間 (2 × 0.6m) は周面摩擦力を考慮しません。

$$Rf = 2194.5 \times 0.6 \times \pi = 4136 \text{ kN}$$

## ③ 杭先端支持力 (Rp)

$$Rp = 340 \times 37.4 \times \frac{0.6^2 \times \pi}{4} = 3594 \text{ kN}$$

平均N値の計算は対象とする区間でN値の占める面積を区間長で割り戻します。

$$\bar{N} = \left[ \frac{(37.9 + 37) \times 0.9}{2} + \frac{(37 + 37.6) \times 0.3}{2} \right] \div 1.2 = 37.4$$

## ④ 長期許容支持力

$$Ra = (3594 + 4136) \div 3 = 2577 \text{ kN}$$

短期は長期の2倍とする。

# 7. 工法別支持力比較

設定条件 …… 砂質土の周面摩擦力の平均N値10、杭先端平均N値30、杭長30m

先端地盤: 砂質地盤

工法	呼び径	支持力 (単位 kN)				
		φ450	φ600	φ800	φ1000	φ1200
HiFB工法	呼び径	φ450	φ600	φ800	φ1000	φ1200
	支持力	1390	2082	3183	4487	5994
プレボーリング 拡大根固め工法	呼び径	φ450	φ600	φ800	φ1000	-
	支持力	679	1083	1758	2591	-
現場打ち (東京都)	呼び径	φ900	φ1100	φ1300	φ1600	φ1800
	支持力	1350	2050	2800	4270	5400

註) 現場打ち杭の数値は(社)東京都建築士事務所協会「建築構造設計指針2001」細砂層の上限値を示します。